

# 経営比較分析表（平成30年度決算）

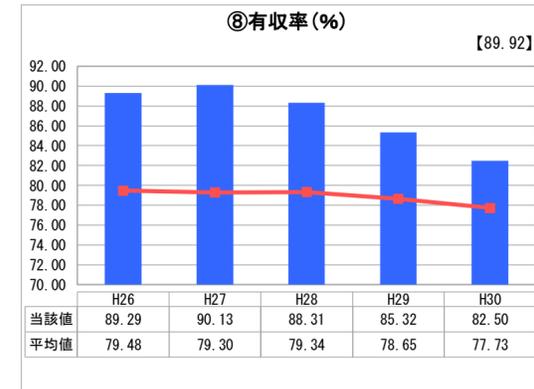
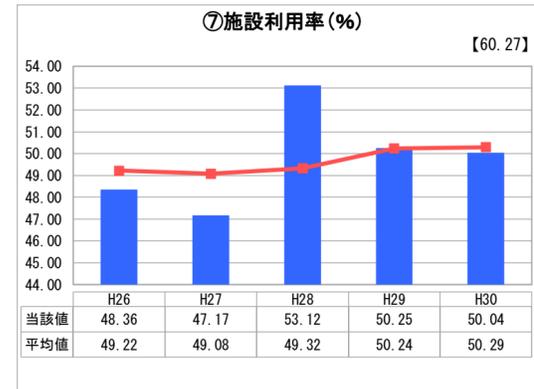
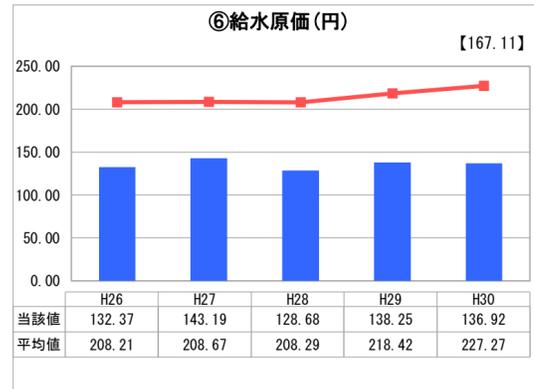
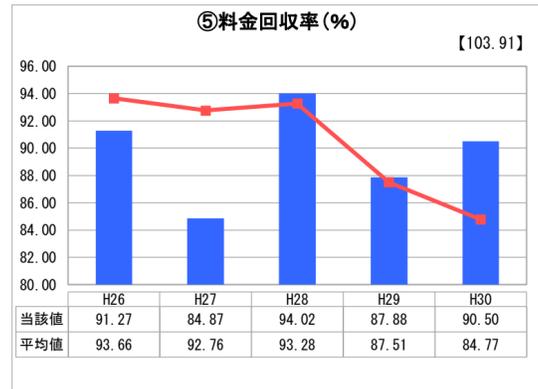
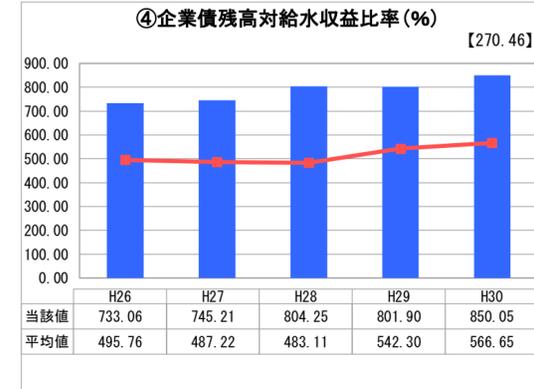
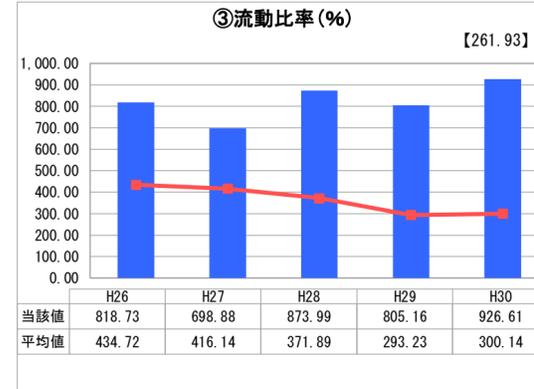
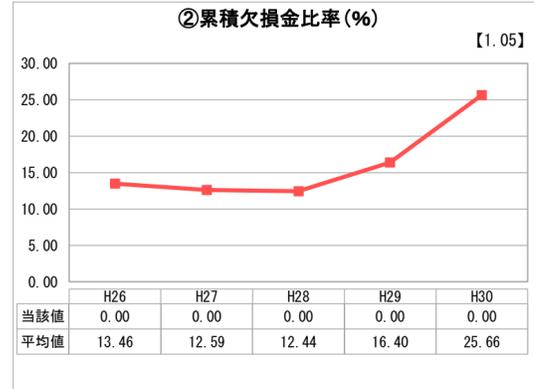
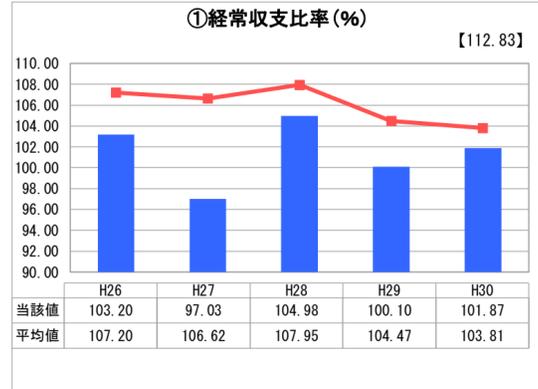
福井県 美浜町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	62.56	66.65	2,160	

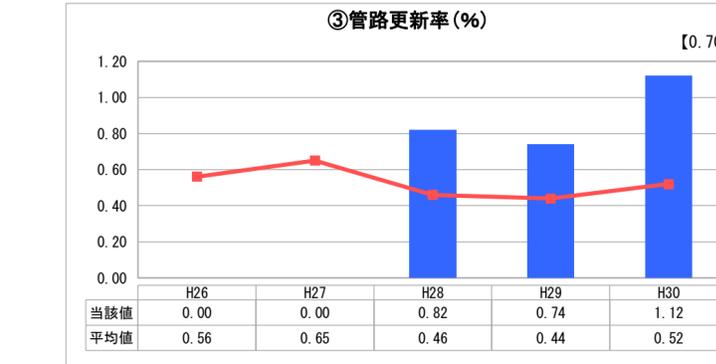
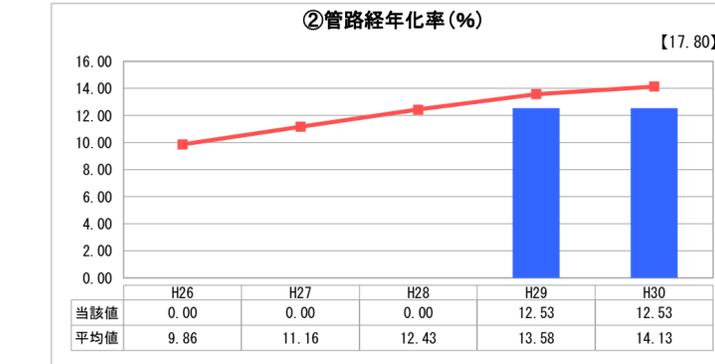
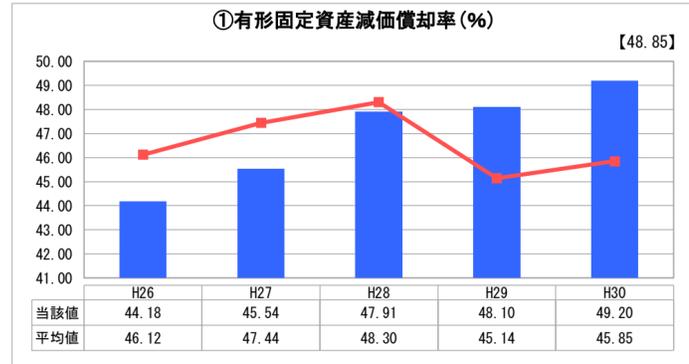
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
9,579	152.35	62.87
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
6,304	21.17	297.78

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成30年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

① 計上収支比率は、平成27年度は修繕費、資産減耗費が多く発生し悪化しました。平成29年度は消費税還付金が減少したこと及び動力費、減価償却費、資産減耗費が増加したことにより悪化しました。平成30年度は人件費、資産減耗費の減少により回復しました。

② 累積欠損金はありません。

③ 流動比率は、高い水準を維持しています。

④ 企業債残高対給水収益比率は老朽管更新を実施中であるため徐々に増加しています。

⑤ 平成27年度の料金回収率が低いのは、修繕費及び資産減耗費が多かったためです。平成29年度が高いのは人件費、資産減耗費が高かったためです。

⑥ 給水原価は、全国平均と比較すると低くなっています。その要因は、償却資産取得財源に補助金、工事負担金の比率が高いことや水源に地下水を利用しており浄水費用が抑制されているためです。

⑦ 平成26～27年度に施設利用率低下の理由は、漏水の減少によるものです。平成28年度に上昇したのは産業団地完成による給水量の増加と配水管布設替えに伴う洗管水量等で配水量が増加したためです。

⑧ 有収率は平成27年度をピークに低下しています。漏水の復元と、布設替りに伴う水張りや管内洗浄水の増加、熟練職員の配置替えて漏水発見率の減少が等が影響しています。

### 2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、平成26年度地方公営企業法改正により償却対象外だった取得資産の財源の補助金等が償却対象になったことにより上昇しました。平成26年度は全国平均に近い数値になり平成29年度からは全国平均を超えています。

② 管路経年化率は、平成29年度に供用開始から40年をむかえたため発生しています。浄水場、配水池の耐震化は完了しました。配水管の耐震化は平成10年度から平成21年度まで公共下水道工事で支障となる管路について施工してきたことから耐震化率は向上しました。今後も、漏水の多い管路、布設替えされていない地域、水圧の高い地域を優先に耐震管への布設替工事を計画的に実施します。

## 全体総括

美浜町の上水道は、自然環境が豊かで豊富な地下水を水源としているため、安全で美味しい水道水を低廉に供給することができていると考えます。しかし、人口減少や節水機器の普及により給水量が減少しており、同時に施設稼働率も低下しています。平成10年度から進めてきた耐震化管路のバイパス化を今後も「新・美浜町地域水道ビジョン（水道整備基本計画）」に基づいて計画的に整備し、余剰水を有効に販売するため隣接する簡易水道施設等との統合による給水区域の拡大を実施し経営基盤を強化すると共に、水道技術の向上により施設の維持管理の徹底と、計画的、効率的な施設更新を実施し、水道事業の目的達成に努力します。